

「HIV 感染者の受診中断要因に関するケースコントロール研究」 情報公開文書

1. 研究の目的と意義

HIV 感染症は、定期的な検査・治療を受けなければやがて免疫機能が低下し、重篤な日和見疾患の発症や死の可能性が高まりますが、実際には受診中断され健康を害する方がおられます。この研究では受診中断につながる要因を明らかにすることで、受診中断を防ぐよりよい HIV 感染症の医療の提供方法を構築することを目的としています。

2. 研究方法

HIV 感染者であり、1997 年 1 月 1 日～2009 年 10 月 31 日に、継続受診を目的として国立病院機構大阪医療センター感染症内科受診した方を対象者とし、受診中断に影響を与える要因について診療録より抽出し、解析いたします。なおこの研究のための調査実施・解析期間は、2012 年 3 月 31 日までとします。

3. 研究機関

本研究は、厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」(平成 22 年度)(研究代表者:国立病院機構九州医療センター免疫感染症科/感染症対策室 山本政弘)の分担研究の一環として実施されるものです。

4. 個人情報の保護と結果の公開

個人情報は当施設内で ID 番号を使用した匿名化処理を行い、氏名などの個人を特定しうる情報は研究に使用しません。この研究の結果は、学会もしくは学術誌において公表する可能性があります。個人を識別できるような情報は公開いたしません。

5. 参加者の負担

この研究のために、新たな検査やアンケートなどの情報収集を行うことはありません。またこの研究に関して、参加者の費用負担はありません。

6. お問い合わせ

研究計画書の開示および研究への参加辞退などをご希望される方は、下記までお問い合わせください。この研究への参加を辞退されても、診療において不利益が生じることはありません。なお、研究結果公表後の辞退や結果の修正はできません。

国立病院機構大阪医療センター感染症内科 富成伸次郎(研究責任者)
電話:06-6942-1331(代表)